

17	刈谷	刈谷市立刈谷南中学校	アオヤマ リクヤ
			名前 青山 陸也
分科会番号	3	分科会名	社会科教育 (中学校)

**研究題目「問題意識をもって主体的に考えを構築する生徒の育成」**  
**—中学2年社会科「近世の日本～百姓と武士はどんな関係?～」授業実践より—**

**1 主題設定の理由**

本学級の生徒は、授業内のさまざまな場面で、教師の問いかけに対してつぶやく姿や、資料からたくさん読み取ることができる姿から、授業に意欲的に取り組む生徒が多いと感じている。また、ペア活動やグループ活動では、誰とでも分け隔てなく話し合いができる生徒が多い。

一方、授業の振り返りでは、単に分かったことが中心に書かれており、問題意識をもって自分の考えを記述する様子はあまり見られない。これは、「どうして?」「なぜ?」という意識をもたせられるような教材が提示できていないこと、また、取り上げた事象と生徒の距離感が遠いことが原因ではないかと考えられる。

さらに話し合い活動においても、教科書に書いてある用語をいくつか選択して事実だけを述べる生徒が多く、自分なりの考えを構築して発言している様子があまり見られない。これは、自分の考えを整理し切れていないことが原因であると考えられる。

以上のことから、研究主題を「問題意識をもって主体的に考えを構築する生徒の育成」と設定し、実践に取り組むことにした。

**2 研究の構想**

**(1) 目指す生徒像**

問題意識をもって主体的に考えを構築する生徒

**(2) 研究の仮説**

**【仮説1】**

生徒の考えを揺さぶる資料を提示すれば、生徒に問題意識をもたせることができるであろう。

**【仮説2】**

生徒にとって身近な教材を使用したり、振り返りの場面や話し合いの場面を設定したりすれば、生徒は自分の考えを整理し、構築することができるであろう。

**(3) 仮説を具体化する手だて**

**【仮説1】に対する手だて**

導入で江戸時代の百姓一揆と成否を表した資料を提示する。この資料からは、百姓一揆が思いのほか成功している（7～8割）ことが読み取れる。生徒はこれまでの授業で、江戸時代の百姓は立場が弱く抵抗することができないという考えをもっている。この資料を提示することによって、「なぜ百姓一揆の成功率が高いのだろうか」と生徒の考え方を揺さぶり、問題意識をもたせることができると考える。

**【仮説2】に対する手だて（ア）**

単元の導入後や寛政一揆の調べ学習後、単元のまとめにおいて、タブレット端末のポジショニング機能を用いて、百姓の立場が“強い”か“弱い”かを、根拠立てて論ずる場面を設ける。その過程で、自分の考えを整理して構築することができるようにすると考える。

**【仮説2】に対する手だて（イ）**

生徒たちが住んでいる刈谷の百姓一揆（寛政一揆）を取り上げ、調べ学習をする場を設ける。身近な地域の教材であるので、生徒たちの事象に対する距離感も縮まり、問題意識をもちやすくなると考える。

**【仮説2】に対する手だて（ウ）**

「なぜ百姓一揆の成功率が高いのだろうか」について、刈谷藩と百姓の2つの立場から一揆を考え、話し合う場を設定することで、自分の考えとは異なる意見も取り入れ、自分の考えを整理して構築することができるようにと考える。

(4) 抽出生徒Aの実態と期待する姿

抽出生徒Aの実態

- ・授業の振り返りでは、学習課題に対して自分の感想や授業のまとめを記述することができる。
- ・自分から疑問をもったり進んで追究したりする様子はあまり見られない。
- ・話し合い活動では、リーダー性があり司会者の役割をこなすことが多い。
- ・話し合いで出てきた意見を取り入れて、自分の考えを構築する様子があまり見られない。

抽出生徒Aに期待する姿

- ・生徒の考えを揺さぶる資料や地域教材と出合うことで、問題意識をもって学習に取り組み、自分の考えを構築できるようになってほしい。
- ・話し合いの中で、仲間の考えを取り入れながら、自分の考えを構築してほしい。

(5) 単元構想図（5時間完了）

	学 習 活 動	指導上の留意点
出 合 う	<p>① 百姓とはどのような人々だろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・米を作る人</li> <li>・弱い立場の人</li> <li>・苦しい生活をしている人</li> <li>・年貢を負担している人</li> <li>・一揆を起こす人</li> </ul> <p>◎一揆はどれぐらい起こっているのだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸時代には3000件ぐらいあった</li> <li>・一揆の成功率は70～80%</li> <li>・刈谷でも寛政一揆が起こった</li> <li>・寛政一揆も百姓の勝利で終わったんだ</li> <li>・なぜ百姓が一揆に勝つことができたのだろうか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○さまざまな意見が出るように、これまでの学習内容を想起するようにする。</li> <li>○百姓のイメージをしやすくするために、「慶安の触書」を提示する。</li> <li>○百姓一揆の成功率が分かるように、全国で起きた百姓一揆と、その結果がまとめられた資料を提示する。</li> </ul>
	<p><b>単元を貫く課題：百姓一揆の成功率が高いのはなぜか</b></p>	
調 べ る	<p>② 寛政一揆はどのようなものだったのだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・刈谷藩の財政が悪く、百姓に先納金を求めたことが原因で起こったんだ</li> <li>・百姓は、約3万人が恩田山と弘法山に集まって、一気に刈谷城に押しかけたんだ</li> <li>・刈谷城では、足軽が集められて、空鉄砲をうちまくっていたんだ</li> <li>・兵を出して百姓を倒そうとする役人もいたんだ</li> <li>・藩の多米左膳が、百姓の願いを聞き入れようとして、一揆を収束させたんだ</li> <li>・藩士たちは、なぜ百姓を倒さないのだろうか</li> </ul> <p>③ なぜ寛政一揆は成功したのだろうか1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・藩の人たちは、百姓に気がつかっているのかな</li> <li>・百姓の願いを聞き入れようとしている</li> <li>・百姓は藩にとって大切な存在なのかもしれない</li> <li>・百姓は、経済の中心である米を作っているから、藩にとって大切ななのかもしれない</li> <li>・武士の俸禄は米で支払われていて、百姓を倒してしまうと武士の生活が成り立たなくなってしまうからかもしれない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の興味を引きつけるために、プロジェクターに学区の石碑の写真を投影し、石碑について問いかける。</li> <li>○百姓と藩の関係に焦点を当てられるように、物語の中で百姓と藩がやりとりをしている場面に注目させる。</li> <li>○寛政一揆の様子を分かりやすくするために、物語として書かれた読み物資料を読む。</li> </ul>
深 め る	<p>④ なぜ寛政一揆は成功したのだろうか2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・百姓は、いざというときには、集団になって幕府に要求するから</li> <li>・百姓は、自分たちのより良い生活のために、命がけで戦おうとするから</li> <li>・百姓は、藩が強くて出られないことを知っていて強気だったから</li> <li>・百姓は藩にとって大切な存在だから</li> <li>・百姓は、経済の中心である米を作っているから、藩にとって大切だから</li> <li>・武士の俸禄は米で支払われているため、百姓を倒してしまうと武士の生活が成り立たなくなってしまうから</li> </ul> <p>◎江戸時代における百姓と武士の関係はどのようなものか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・武士は百姓が作る米を俸禄としてもらっていて、百姓がいないと生活が成り立たない</li> <li>・百姓は武士に守ってもらう代わりに、武士に年貢を納めている</li> <li>・武士との関係だけにとどまらず、百姓がいないと江戸幕府の政治、経済が成り立たない</li> </ul> <p>⑤ 江戸時代の百姓の役割は何だろうか</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○仲間の意見を聞きやすくするために、座席配置をコの字型にする。</li> <li>○多面的・多角的に考えていくために、「百姓」「藩」の視点で考えを述べていくようにする。</li> <li>○2つの視点が分かりやすくなるように、「百姓」「藩」で分けて板書していく。</li> <li>○多様な考え方から自分の考えを再構築するために、ペアやグループで話し合う時間を作る。</li> </ul> <p>○単元を通して自分の考えを</p>

ま と め る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・武士を支えている</li> <li>・食糧やお金になる米を作る役割</li> <li>・どの身分よりも江戸幕府を支えている</li> <li>・百姓がいなければ江戸幕府は成り立っていない</li> <li>・江戸時代の日本の経済を支えている</li> </ul>	構築できるように、これまでの自分のポジショニングを見て振り返りを書く。
------------------	---	-------------------------------------

### 3 実践と考察（生徒Aの変容を追って）

#### (1) 江戸時代の百姓のイメージを揺さぶられた生徒A（仮説1手だての検証）

単元の導入で「江戸時代の百姓のイメージ」を問うと、「米を作る人、年貢を納める人、支配される人」など立場的に「弱い」と捉えていることが分かった。そこで、江戸時代の百姓の様子がよく分かる資料として「慶安の触書」を提示した。生徒たちは、百姓は自由に生きることが許されず、厳しい制約の中で生活していたことを読み取っていた。

その後、「このような制約を百姓はどう思っていたのだろうか」と問うと、生徒たちは「不満に思っていたと思う」と口々につぶやいた。さらに「不満に思っただけなのだろうか」と切り込むと、ある生徒が「一揆を起こす人もいたと思う」と声を上げたため、江戸時代に起こった百姓一揆と、一揆の成否を一覧にした資料<資料1>を提示した。

すると、生徒たちから、「一揆の成功率が高い」と驚きの声が上がった。ここで生徒Aは、「確かに」とつぶやいていた。生徒Aの振り返り<資料2>を見てみると、「百姓は比較的弱い身分だと思っています。ですが一揆の成功率は約7割です。この背景には武士や藩が関係していると思います。（中略）すごく気になりました。」と記述している。このことから、なぜ百姓一揆の成功率が高いのか気になっていることがうかがえる。またそうなっている理由として、武士や藩が「皆の意見を取り入れよう」という方針が変わったのではないかと仮説を立てていた。生徒Aが振り返りで仮説を立てているところから、江戸時代の百姓について、問題意識をもたせることができたと考える。

#### (2) 刈谷でも一揆が起こっていたことを知り、百姓一揆をより身近なものに感じ、自分の考えを構築する生徒A（仮説2手だて（ア）、（イ）の検証）

本単元では、振り返りの際に、タブレット端末のポジショニング機能を使用した。ポジショニング機能を使用した理由としては、自分の立場が視覚的に分かりやすくなり、授業ごとに振り返りを蓄積していくことで、本単元を通して自分の考えを構築していけると考えたためである。

生徒Aの第1時のポジショニング<資料3>を見ると、百姓の立場を「弱い」とポジショニングしていることが分かる。その上で、自分の考え<資料2>を構築することができた。

第2時には、刈谷でも百姓一揆が起きていたことを知った生徒たちに、学区にある石碑<資料4>を提示した。生徒たちが



<資料4>  
学区の石碑

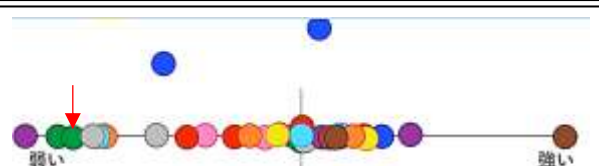
#### ○一揆一覧 ※（地名）は都道府県名または藩名

- 1603年（慶長8年）：龍山一揆（土佐）×
- 1608年（慶長13年）：山代堀長一揆（山口）○
- 1614年（慶長19年）：北山一揆（相模山）×
- 1620年（元和6年）：祖谷山一揆（徳島）×
- 1637年（寛永14年）：島原の乱（長門・熊本）×
- 1652年（承応元年）：小波瀬領承応元年一揆（福井）×
- 1690年（元禄3年）：山陰・坪谷村一揆（吉崎）×
- 1726年（享保11年）：山中一揆（岡山）○
- 1738年（元文3年）：元文一揆（刈谷）×
- 1739年（元文4年）：元文一揆（鳥取）○
- 1754年（宝暦4年）：郡上一揆（郡上）○
- 1771年（天明8年）：虹の松原一揆（佐賀）○
- 1781年（天明元年）：郡一揆（群馬）△
- 1790年（寛政2年）：寛政一揆（刈谷）○
- 1793年（寛政5年）：武左衛門一揆（愛媛）○
- 1812年（天保12年）：山城谷一揆（徳島）×
- 1812年（天保12年）：近江天保一揆（滋賀）○
- 1847年（弘化4年）：三階伊一揆（岩手）○
- 1856年（安政3年）：流集一揆（岡山）○

<資料1>江戸時代の百姓一揆の成否

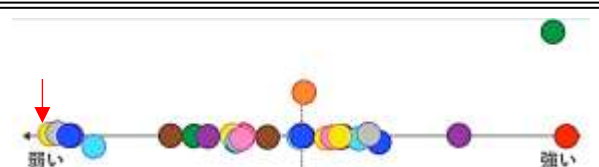
私の考えとして、百姓は比較的弱い立場だと思っています。ですが、一揆の成功率は約7割です。この背景には、武士や藩が関係していると思います。「皆の意見を取り入れよう！」というような方針が変わったのではないかと思いました。（中略）すごく気になりました。

<資料2>生徒Aの振り返り



百姓の意見が取り入れてもらえるようになったのは、百姓の立場が強かったのではなく、取り入れる側の武士や藩、役人などの人々の方針が昔から変わったからなのではないかと思ったから。

<資料3>導入後のポジショニングと生徒Aの振り返り



まず、百姓が不満をもってしまふような環境であるから立場はそこまで上ではないと思われる。幕府から処分を言い渡されてより生きにくい生活にされてしまっているの、反抗する気力もなくなり、立場は沈む一方だったのではないかと考える。

<資料5>寛政一揆の調べ学習後のポジショニングと生徒Aの振り返り

らは、「見たことがある」と声が挙がった。生徒Aも、「知っている」とつぶやいていた。さらに生徒Aに「どういう石碑なの？」と聞くと、由来や意味については知らない様子であった。生徒たちは「この石碑には何と書いてあるのだろうか」と疑問を口にしたので、碑文について説明した。「これより東は福島領ってどういうこと？」と発言した生徒がいた。そこから石碑が建てられた経緯についての調べ学習が始まった。

生徒Aは、副読本「わたしたちの郷土」を使って調べ学習を進める中で、この石碑は、寛政一揆後に一揆を防げなかった罰として、刈谷藩の一部と福島藩の一部が領地替えさせられた時のものだと気付いた。第2時のポジショニング<資料5>を見ると、調べ学習の内容をふまえて、第1時よりもさらに百姓の立場を「弱い」とポジショニングし、自分の考えを構築していることが分かる。

2回目までのポジショニング<資料3・5>を見ると、百姓の立場は「弱い」と考えていたが、単元のまとめ後のポジショニング<資料6>では、百姓の立場は「強い」という考えを構築している。また、単元のまとめ後には、単元の始めのポジショニングをふまえて振り返り<資料10>を書いていることが分かる。

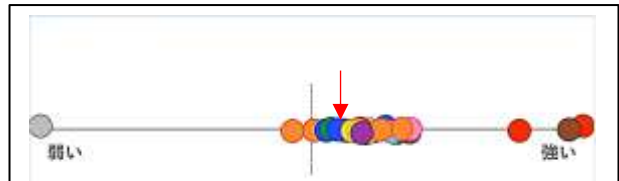
**(3)話し合いによってほかの考え方に触れ、自分の考えを整理し構築し直す生徒A（仮説2手だて（ウ）の検証）**

第3時に、第1時で生徒Aが立てた「武士や藩が「皆の意見を取り入れよう」という方針が変わってきたため」一揆の成功率が高くなったのではないかとという仮説を紹介した。その仮説を調べるため、寛政一揆を物語にした読み物資料を配付し、刈谷藩と百姓の行動や、やりとりから寛政一揆が成功した理由を考えた。

生徒Aは、振り返り<資料7>で「刈谷藩は財政難などで一揆に対して抵抗ができなかったのではないかと。また大きな騒ぎになることを避けたかったのではないかと」考えている。

第4時には、第3時で考えたことをもとに話し合いを行い、寛政一揆が成功した理由に迫った。生徒たちは、刈谷藩と百姓の行動ややりとりを根拠に、寛政一揆が成功した理由を発表した。ある生徒が、「藩は騒ぎが大きくなることを心配したから」と発言した。それに対して、「資料のどこから読み取ることが出来ますか」と切り返した。生徒たちは、資料を見て周りを確認し、藩士2人が話している場面<資料8>に着目した。「藩が百姓を武力によって抑えなかったのはなぜだろうか」と切り返すと、生徒たちは藩にとって百姓はどのような存在であるかを考え始めた。

生徒Aは、グループでの話し合い<資料9>を通して「百姓は藩の経済を支えている人々」と、考えを変容させた。また、振り返りでは、寛政一揆が成功した理由について、「百姓は藩の経済を支えているし、藩としては百姓がいてくれないと経済が成り立たない。百姓が働かなくなってしまうと今よりも財政難になってしまうから一揆を成功させた」と記述していた。単元の導入時には、「藩側の人が優し



私は、百姓は少し強い立場なのではないかと考えます。前回の授業で、百姓は藩の経済を支えていたということが分かりました。つまり、百姓がいないと財政はまわらず、財政難におちいります。藩として「百姓」という存在は、とても大切な存在です。このように、藩という上の立場の人々から必要とされているということは、立場的に強いのではないかなと思いました。  
<資料6>単元のまとめ後のポジショニングと生徒Aの振り返り

刈谷藩は財政難などで、一揆の抵抗ができなかったのではないかなと思いました。それプラス、大きな騒ぎになることは避けたかったのではないかなと思いました。  
<資料7>生徒Aの振り返り

(略)・・・城中では役人がどうしたらよいか話しています。「兵をだして、百姓どもをけちらせ。」「いや、そんなことをしたら、さわぎはますます大きくなり、てにおえなくなるぞ。」と、意見はまとまりません。・・・(略)  
<資料8>生徒たちが着目した箇所

T : 藩が百姓を武力によって抑えなかったのはなぜでしょうか。  
生徒 A : 藩としては、百姓がいないと年貢を納めてくれる人がいなくなるからだと思います。  
生徒 B : 百姓は、お金としても食糧としても大切なお米を作っていて、この人たちがお米を作ってくれなくなったら、藩（武士）が困るからだと思います。  
生徒 A : つまり、百姓は藩の経済を支えている人々ということかな。  
<資料9>グループでの話し合い活動の記録

私は初めの時、一揆が成功した理由は「藩側の人

ったから」という根拠のない理由だったものが、「藩にとって百姓は経済を支えてくれているとても大切に大きな存在」と、話し合いを通して自分の考えを整理し、構築することができた。〈資料 10〉

#### 4 研究の成果

「問題意識をもって主体的に考えを構築する生徒の育成」を願い、実践を行ったところ、以下の成果を明らかにすることができた。

##### (1) 仮説 1 に対する手だて

問題意識をもたせるために、百姓一揆の一覧と成否の資料を提示したところ、生徒 A は、振り返りに「百姓は比較的弱い立場だと思っています。ですが、一揆の成功率は約 7 割です。この背景には、武士や藩が関係していると思います。『皆の意見を取り入れよう！』というような方針に変わったのではないかと思います。」と仮説を記述していた。これは、生徒 A が社会的事象に対して、問題意識をもっている姿であると考えられる。よって、生徒の考えを揺さぶる資料を提示する手だては、有効であったと言える。

##### (2) 仮説 2 に対する手だて

###### ①手だて (ア)

生徒が考えを構築しやすくするために、タブレット端末のポジショニング機能を使い、振り返りを行った。生徒 A の全てのポジショニング〈資料 3・5・6〉を見ると、授業を踏まえてポジショニングをし、振り返りを行っている様子が分かる。また、生徒 A の振り返り〈資料 10〉を見ると、「私は初めの時、一揆が成功した理由は『藩側の人が優しくなったから』というものだと思っていました。・・・(略)」と記述し、過去の振り返りを生かして考えを構築していることが分かる。よって、ポジショニング機能を用いて振り返りを行う手だては、有効であったと言える。

###### ②手だて (イ)

生徒が考えを構築しやすくするために、地域で起こった寛政一揆を取り扱った。学区にある石碑を提示すると、生徒 A は「知っている」とつぶやいたが、その由来や意味を知らないため、石碑が立てられた経緯を解き明かそうと、調べ学習が始まった。振り返りには、「(略)・・・幕府から処分を言い渡されてより生きにくい生活にされているので、反抗する気力もなくなり、立場は沈む一方だったのではないかと考える。」と記述し、生徒 A が自分の考えを構築していることが分かる。よって、地域教材を取り扱う手だては、有効であったと言える。

###### ③手だて (ウ)

生徒が考えを構築しやすくするために、寛政一揆を物語にした読み物資料を配付し、刈谷藩と百姓の行動ややりとりから寛政一揆が成功した理由について話し合いを行った。生徒 A は、話し合う前に「刈谷藩は財政難などで一揆に対して抵抗ができなかったのではないかと考えていた〈資料 7〉が、話し合い後には、「藩にとって百姓は経済を支えてくれているとても大切な存在」〈資料 10〉と考えを構築していることが分かる。よって、話し合う場を設定する手だて (ウ) は、有効であったと言える。

#### 5 今後の課題

今回、「問題意識をもって主体的に考えを構築する生徒の育成」について研究を行ってきたなかで、以下の 2 点が課題として上がった。

##### (1) 通史と地域史とのつながり

成果でも述べた通り、地域教材を扱うことは、生徒が考えを構築する上で有効であったが、全ての場面で地域教材を扱うことはできないだろうと考えられる。今後も地域教材を開発し、少しでも生徒たちの学びにつなげていきたい。

##### (2) 話し合い活動の工夫

今回の実践では、話し合いの場を設けたが、発言する生徒はいつも同じようなメンバーであった。今後は、生徒一人一人が多様な意見を受け止め、よりよい考えを構築できるように、ペアやグループ、全体など話し合いの方法を工夫し、一人でも多くの生徒が意見を伝え、仲間の意見を聞ける授業づくりをしていきたい。